

春の全国交通安全運動と地域安全運動が始まります

▷問い合わせ先＝市民環境課交通安全係・市民生活係(☎内線127)

4月6日から15日までの10日間は、「春の全国交通安全運動」と「春の地域安全運動」が行われます。

春は、新入学児童の登下校が始まる季節です。ドライバーの皆さんは、特に学校の周辺と通学路では十分減速し、子どもに気を付けて運転しましょう。

家庭では、子どもが交通事故や犯罪の被害に遭わないよう、一緒に通学路を歩きながら、危険箇所の確認をするなど、子どもの安全を確保しましょう。



春の全国交通安全運動

スローガン よくみせて ちいさなきみの おおきなて

春は気温が上がり、ぼんやりと運転をしてしまい、安全確認がおろそかになりがちです。

ドライバーは、周囲に注意を払い、スピードを控えましょう。全ての座席でシートベルトを着用し、チャイルドシートはできるだけ後部座席に設置し、正しく着用しましょう。



チャイルドシート着用推進シンボルマーク「カチャビヨン」

歩行者は、道路を横断するときは、左右をよく確認し、斜め横断などの危険な横断を避けましょう。夜間は目立つ服装を心掛け、反射材やLEDライトを身につけましょう。



自転車は、ルールを守るだけでなく、日頃から点検整備し、TSマークなどの保険に加入しましょう。

■交通安全運動の重点項目

- ・子供と高齢者の安全な通行の確保と高齢運転者の交通事故防止
- ・自転車の安全利用の推進
- ・全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- ・飲酒運転の根絶



■自転車安全利用五則

- 1 自転車は、車道が原則、歩道は例外
- 2 車道は左側を通行
- 3 歩道は歩行者優先で、車道寄りを徐行
- 4 安全ルールを守る
 - ・飲酒運転・二人乗り・並進の禁止
 - ・夜間はライトを点灯
 - ・交差点での信号遵守と一時停止・安全確認
- 5 子どもはヘルメットを着用



春の地域安全運動

スローガン なくそう犯罪 ふやそう笑顔 みんな大好き岩手県

県内では、不審者による子どもへの声掛け事案や、架空請求詐欺などの詐欺被害が多発しています。

家庭、学校、職場、そして地域ぐるみで防犯対策を万全にして、安全安心の輪を広げましょう。

■地域安全運動の重点項目

- ・特殊詐欺の被害防止
- ・子どもと女性の安全確保
- ・鍵掛けの励行



生涯学習推進のつどいを開催しました

▷問い合わせ先＝生涯学習課生涯学習係(☎内線272)

2月23日、リアスホールで行われた「大船渡市生涯学習推進のつどい」に約200人の市民が集まり、「国際化時代の人づくり」について理解を深めました。

つどい前半は、地区・地域公民館活動に長年尽力された皆さんに感謝状が贈られた後、中央公民館主催の講座受講生が中心になって設立された天文学サークル「宙詠みサークル朔」の柳谷信吾代表による活動紹介が行われました。

後半の幕開けは、越喜来中学校3年の坂本美岬さんによる英語暗唱。その後、本市の2020年東京オリンピック・パラリンピック「復興『ありがとう』

■感謝状受賞者の皆さん(敬称略)

氏名(地区)	氏名(地区)
鈴木 佑典(大船渡町)	今野忠太郎(赤崎町)
金野 哲夫(猪川町)	佐藤 栄(三陸町綾里)
佐藤 義清(大船渡町)	佐藤栄久夫(大船渡町)
新沼 文男(大船渡町)	菊地 博行(三陸町吉浜)
木川田 準一(三陸町吉浜)	寺澤 寛(三陸町吉浜)
木村 正 繼(三陸町吉浜)	武蔵 守(大船渡町)
舞良 照男(立根町)	船野 渉(日頃市町)
及川 善文(三陸町越喜来)	

う』ホストタウン」交流の相手国であるアメリカ合衆国の在札幌総領事館ハービー・ビーズリー領事から「これからの国際交流」と題してお話を伺いました。

領事からは「多くの方が外国を訪れてほしい。その経験が外国人を受け入れる際に役立つ」など、これからの交流に生かせるお話をたくさん聞くことができました。



①ハービー領事(右)から貴重なお話を聞かせていただきました②長年にわたり公民館活動に尽力された皆さん



立命館大学が「大船渡まちづくりプログラム」を行いました

▷問い合わせ先＝企画調整課地域交流係(☎内線216)

2月18日から22日まで、立命館大学の学生など約20人が、「大船渡まちづくりプログラム」として市内で現地学習を行いました。

このプログラムは、立命館大学と本市が、平成28年4月に締結した「連携協力に関する協定」に基づいて行われたもので、参加者は、被災地視察や市役所、地域公民館、キャッセン大船渡などで、復興状況と今後の課題について意見交換し、被災地の課題、ニーズの把握に努めました。

21日には、大船渡高校の生徒と大船渡の特徴や未来の理想の姿について考えるワークショップを開催。それぞれの視点から地元の魅力について意見交換し、将来のまちのあり方を考えました。



①大船渡高校でのワークショップの様子②戸田市長の講義を受ける立命館大学の学生

